

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

アリエッティ基金

生活再生支援センター共同代表
社会福祉法人生活クラブ理事長
池 田 徹

NPO VAIC コミュニティケア研究所が事務局を務める生活再生支援センターが「アリエッティ基金」と名付けた多重債務者向けの緊急小口基金を立ち上げる。名称は、ご存知スタジオジブリの最新作「借り暮らしのアリエッティ」から取った。

生活再生支援センターは、生活クラブ生協、労働金庫、労働者福祉協議会などが運営委員会を構成し、海匠ネット、長生ひなた等、中核センターの皆さんにも協力を得て、多重債務者への支援や高校生等への金銭教育などの活動を行なっている。また、VAIC コミュニティケア研究所は、県の委託を受けて365日の多重債務者相談事業を行なっている。

最近の相談者の傾向は、明日の生活費はおろか、相談に来る交通費すら持ち合わせない生活困窮者が増えていることだ。社協の総合支援資金が拡充するなど、こうした人々への支援策はあるが、融資決定までの数日間を過ごす小額のお金にすら困る人への、1万円を限度とするつなぎ資金を用立てしようという趣旨でアリエッティ基金が誕生する。

貸金業法の本格施行によって、サラ金等から多額の借金をすることができなくなった。しかし、生活資金を必要とする貧困層は引き続き増加しており、ヤミ金等の利用でより深刻な状況に陥る人が増えることが危惧される。

アリエッティ基金の活動を出発点にして、本格的なセーフティネット貸付の仕組みを創出することが求められる。

因みに、アリエッティ一家は、身長十数センチの種族で、人間の家の軒下に住みつき、その家の食料や生活用品を借りて生活する「借り暮らし」だが、本当に必要な分しか借りない、身の丈の暮らしをしている。原作はメアリー・ノートの「床下の小人たち」。



ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

なかよく

中能 美香氏(地域活動支援センター「そらのまめ」施設長)

千葉市花見川区にある地域活動支援センター「そらのまめ」は、こころの病経験者のネットワークであるNPO法人ぴあ・さぼ千葉が運営しています。施設長の中能さんも、「うつ」の経験者です。

平成19年9月にぴあ・さぼ千葉が活動開始、翌20年2月にNPO法人化、同年12月に「そらのまめ」が開所されました。中能さんは、当時ぴあ・さぼ千葉で事務局をやっていました。NPO法人の認証を受ける手続きも、地域活動支援センターの申請も、どちらも大変な労力がかかります。でも全て中能さんを中心として、当事者だけでやりました。

「ぴあ・さぼ千葉を開始した当初から、居場所の事はずっと頭の中にあって、『必ず誰かがいてくれる場所』があるといいてメンバー同士で言ってました。そこで市に相談に行ったら、地域活動支援センターを教えてくれて、しかもⅡ型とⅢ型は専門職が不要と分かり、自分達だけでもできるかもしれないと思ったんです(※そらのまめはⅡ型)。書類の作成が大変でしたが『具合が悪くなったらどうしよう』なんて思う余裕はなく、具合が悪くてもやるしかなかった。私はもともと裏方好きで『センター長なんかとんでもない、どうしたら断る事ができるか』をずっと考えていました。けれども、毎日センターに来られる人・手続きが分かる人、その両方に当てはまるのは自分だけ。それと『やれるかどうかわからないし、何がやれるのかもわからないけれど、自分に機会が回ってきたのは、自分にできることがあるんだろうな』と思って、センター長を引き受けました。」

現在は、登録メンバーは142名、契約している市も6市になりました。スタッフ4名と各プログラムを担当するメンバーはみな当事者です。非常勤コーディネーターはSSTの第一人者、土屋徹さんです。土屋さんは「当事者に雇われるのが夢」と言っていたそうです。

「メンバー内のトラブルはスタッフが解決するのではなく、基本的に自分達で解決するようにしてもらってます。そうしないと、すぐにスタッフに頼ってしまうようになるから。最初は無理でも、そのうちメンバーだけで何とかやれてくるようになるので、最近は『まめに行くとな強くなる』って言われてます。今後は就労支援をやりたいです。もちろんそれも当事者だけでやるんですけど。」

地域活動支援センター「そらのまめ」

事業所の所在地 ■〒262-0032 千葉市花見川区幕張町 5-417-281 第8 マチイビル501号

電話&FAX ■043-310-3062 MAIL ■soranomame@live.jp

URL ■<http://soranomame1201.web.fc2.com/>

「そらまめ」ってあたたかな皮に包まれてるでしょ？
でも、中身はしっかりしています。
そして暖かな皮の中で育って立派な豆になるのです。
あたたかいけど、最終的には独り立ち出来る。
そんな願いを込めて『そらのまめ』と名付けました。





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

[船橋市] 講演&シンポジウム

「新しい障害施策をつくる」～障害者自立支援法に代わる施策とは～

講師 朝比奈 ミカ氏

(中核地域生活支援センター がじゅまるセンター長
国障害者制度改革推進会議 総合福祉部会委員)

手話通訳・要約
筆記あります。

シンポジウム「新たな施策に期待する」

<シンポジスト> 荒井 隆一 氏 [福] ロザリオの聖母会グループホーム支援センター
杉井 和男 氏 [NPO] 船橋障害者自立生活センター “WAVE ふなばし”
船田 伸二 氏 [福] ワーナーホーム 障害者就業・生活支援センター “ブリオ”

<コーディネーター> 朝比奈 ミカ 氏

日時：11月6日(土) 13:00～16:40(開 場 12:30)

場所：船橋市高根台公民館講堂(船橋市高根台1-2-5、新京成線「高根台駅」下車徒歩2分)

参加費：資料代として500円 定員：100名(要申込み 先着順にて)

お問い合わせ：ふらっと船橋【担当 正木・清水】(高根台公民館では受付していません。)

TEL:047-495-6777 FAX:047-495-6776

[千葉県] 第6回権利擁護セミナー「障害のある人の権利を守るということ」 ～浦安事件を通して考える～

◇基調講演 演題 「知的障害のある人の供述とどう向き合うか」

講師 関哉 直人 氏 (弁護士、全日本手をつなぐ育成会法律相談担当、権利擁護委員会委員)

◇シンポジウム テーマ 「少女の訴えをうけとめ、つないでいくために」

シンポジスト；被害児童のご家族、渡辺由紀子氏(元支える会)、渋谷茂氏(中核 長生ひなた所長)

助言者； 関哉直人弁護士

コーディネーター； 朝比奈ミカ氏 (中核 がじゅまる所長)

日時：11月22日(土) 10:30～14:30(受付 10:00～)

場所：千葉県社会福祉センター 5階 研修室

(千葉市中央区千葉港4-3 千葉モノレール「市役所前」下車徒歩3～4分)

参加費：300円(資料代)

(昼食は、各自でご用意ください)

昼食について：お弁当やさんが、朝、注文を受け、お昼に届けてくれます(お茶付500円)。

お問い合わせ：千葉県手をつなぐ育成会

TEL：043-246-2181 Mail：info@chi-ikuseikai.com

育成会会員、他機関の関心のある方、皆様のご参加をお待ち申し上げます。(申込締切11月12日)

ご存知ですか？中核地域生活支援センター

『第2回千葉県中核地域生活支援センターシンポジウム』のご案内

中核地域生活支援センターの役割と今後のあり方について一緒に考えませんか？

日時：11月30日（火）13時～16時30分

場所：千葉市文化会館小ホール（千葉市中央区市場町11-2 千葉県庁近く）

参加費：無料

定員：250名（先着順で締め切らせていただきます）

申込締め切り：11月22日（月）

主催：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

お問い合わせ：中核地域生活支援センターすけっと（中核地域生活支援センター連絡協議会事務局）

電話：043-483-3718 / FAX：043-483-3719

MAIL：3718suketto@rc-aikoh.or.jp

基調講演：「この国の貧困と子どもたちの未来」

山野良一さん（千葉明德短期大学）

「貧困の原因、責任の所在、孤立や経済のひずみが子どもの問題に表れている現実」を前提にし、地域として必要な実践のあり方についてお話いただきます。

シンポジウム：「市町村福祉の中での中核センターの機能と役割」

～多問題家庭への支援をめぐる～

シンポジスト	銚子市民生部子育て支援室	神崎さち子さん
	茂原市福祉部障害福祉課	岡田真澄さん
	社会福祉法人市川市社会福祉協議会	山崎泰介さん
	中核地域生活支援センターなかまネット	上谷 豪さん
	中核地域生活支援センター君津ふくしネット	西山信男さん

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：すけっと（印旛圏域）佐倉市錦木仲田町9-3 TEL:043-483-3718 FAX:043-483-3719

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：くらた 藏田）までお願いします。